

平成29年3月1日(水)に卒業式を行いました。

晴れ晴れとした青空のもと、3年間の高校生活の思い出を胸に、84名が卒業しました。一人一人に卒業証書が授与された後、校長より「皆さんは3年間、復興関係のボランティアに参加し、復興研究会の交流活動等から『生きる・関わる・備える』、被災地の復興防災を学ぶことができました。自ら何とかしたいという思いを大切に、地域のためにどうあるべきか常に考えてほしいと思います。グローバル化に備え、自ら考え未来の状況に対応できる思考力判断力表現力を持ち、校歌にある「理想をかざす 決意見よ」のように目標に向かい努力することを忘れず活躍してくれるものと思っています。」と式辞がありました。

続いて大槌町長からは、激励として、「中国では人の幸福には「長寿、富貴、健康、道徳、天寿」の5つと最後にもう1つ、その人だけが持つことが出来る唯一の幸福が存在します。それを自分自身で見つけ、探し出すため頑張ってください。」との言葉をいただきました。またPTA会長からは、「人との繋がり大きな財産であり、多くを学ぶことが出来ます。生きていくためには自己を取り巻くあらゆるものの支えが必要であり、生きていること、生かされていることへの感謝を忘れず社会で必要だと思われる人材になってほしい。」と祝辞をいただきました。続いて同窓会長からは、「本校創設以来受け継がれてきた『真理・礼節・健康』の精神をもとに生きる力を身につけてきたことと思います。社会は個々の努力を認めてくれます。3年間で培った生きる力を使い、甘えを捨て一步一步道を切り開き社会人として成長することを祈っています。」と祝辞をいただきました。

生徒を代表して生徒会長から送辞があり、「手本となった先輩方は、私たちに多くのことを残してくれました。先輩方が大槌高校を誇りに思えるよう、先輩方から引き継いだ伝統をさらに発展させていくことを誓います。」と決意を述べました。卒業生代表は、後輩たちに向けて「自分らしさを忘れないということをお願いしたい。そのために自分自身を見つめなおし自分をよく理解するとともに、自分自身で考えて行動できる人になってほしい。」と激励と期待の思いが込められた答辞を述べました。

校歌を高らかに謳い、ご来賓、保護者、教職員、在校生に見送られ巣立ちました。



卒業生入場



卒業証書授与



校長祝辞



卒業生代表答辞



校歌斉唱



卒業生退場